



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



記事を読んで、問いに答えましょう。

2022年 6月12日朝刊西部版

給食の生ごみ 堆肥化 笠井中 減量へコンポスト容器



コンポスト容器を受け取る生徒ら＝浜松市東区の笠井中

浜松市東区の笠井中は10日、同市のごみ減量策の一環で、給食で生じた生ごみを堆肥に再利用する取り組みを始めた。市ごみ減量推進課の担当者から減量策の説明を受け、生徒会役員が堆肥化に使うコンポスト容器を受け取った。

花壇で利用「問題身近に」

コンポスト容器に入れた生ごみに土や枯れ葉を混ぜることで、微生物がごみを分解し、野菜や花の堆肥に変わる。同市は毎年、希望する家庭にコンポスト容器を無料配布している。本年度は子どものごみ問題への関心を高めて、各家庭に普及しようとして、市内の小中学校程度にコンポスト容器を配布する。同校は給食に出た果物の皮などを容器に入れて、堆肥は校内の花壇で使う予定。この日は容器の受け渡しに先立ち、市の担当者が講義で減量の方法や重要性を伝えた。生徒会長の前山勇真さん(3年)は「ごみの問題を身近に感じられた。自分たちができることからやっつけていきたい」と話した。

(浜松総局・柿田田雄)

- ①見出しの「堆肥」は何と読みますか。ひらがなで書きましょう。()
- ②記事の中学生が始めた取り組みでは、何を堆肥に再利用しますか。()
- ③記事中、どのようにして「堆肥」ができるのかを説明しているところに線を引きましょう。
- ④この取り組みでできた「堆肥」は何に利用する予定ですか。()
- ⑤記事のような取り組みを通して、中学生はどんなことを学ぶことができるとおもいますか。50字以内で書きましょう(句読点を含みます)。

作問者: 静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(小学校高学年～中学校/社会、理科、国語、総合)

年 組 名前



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう

解答例



静岡新聞

記事を読んで、問いに答えましょう。

2022年 6月12日朝刊西部版

給食の生ごみ 堆肥化 笠井中 減量へコンポスト容器



コンポスト容器を受け取る生徒ら＝浜松市東区の笠井中

浜松市東区の笠井中は10日、同市のごみ減量策の一環で、給食で生じた生ごみを堆肥に再利用する取り組みを始めた。市ごみ減量推進課の担当者から減量策の説明を受け、生徒会役員が堆肥化に使うコンポスト容器を受け取った。

花壇で利用「問題身近に」

コンポスト容器に入れた生ごみに土や枯れ葉を混ぜることで、微生物がごみを分解し、野菜や花の堆肥に変わる。同市は毎年、希望する家庭にコンポスト容器を無料配布している。本年度は子どものごみ問題への関心を高めて、各家庭に普及しようとして、市内の小中学校程度にコンポスト容器を配布する。同校は給食に出た果物の皮などを容器に入れて、堆肥は校内の花壇で使う予定。この日は容器の受け渡しに先立ち、市の担当者が講義で減量の方法や重要性を伝えた。生徒会長の前山勇真さん(3年)は「ごみの問題を身近に感じられた。自分たちができることからやっつけていきたい」と話した。

(浜松総局・柿田田雄)

- ①見出しの「堆肥」は何と読みますか。ひらがなで書きましょう。
(**たいひ**)
- ②記事の中学生が始めた取り組みでは、何を堆肥に再利用しますか。
(**給食で生じた生ごみ／給食に出た果物の皮 など**)
- ③記事中、どのようにして「堆肥」ができるのかを説明しているところに線を引きましょう。
- ④この取り組みでできた「堆肥」は何に利用する予定ですか。
(**校内の花壇で使う(予定)。**)
- ⑤記事のような取り組みを通して、中学生はどんなことを学ぶことができると思いますか。50字以内で書きましょう(句読点を含みます)。

(例)ごみの問題を身近に感じることができ、自分たちに何ができるかを具体的に考える機会となる。(43字)

(例)身近なごみ問題への関心を高め、自分たちができることから実践していこうとする姿勢を学ぶことができる。(49字) など

作問者: 静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(小学校高学年～中学校／社会、理科、国語、総合)

年 組 名前